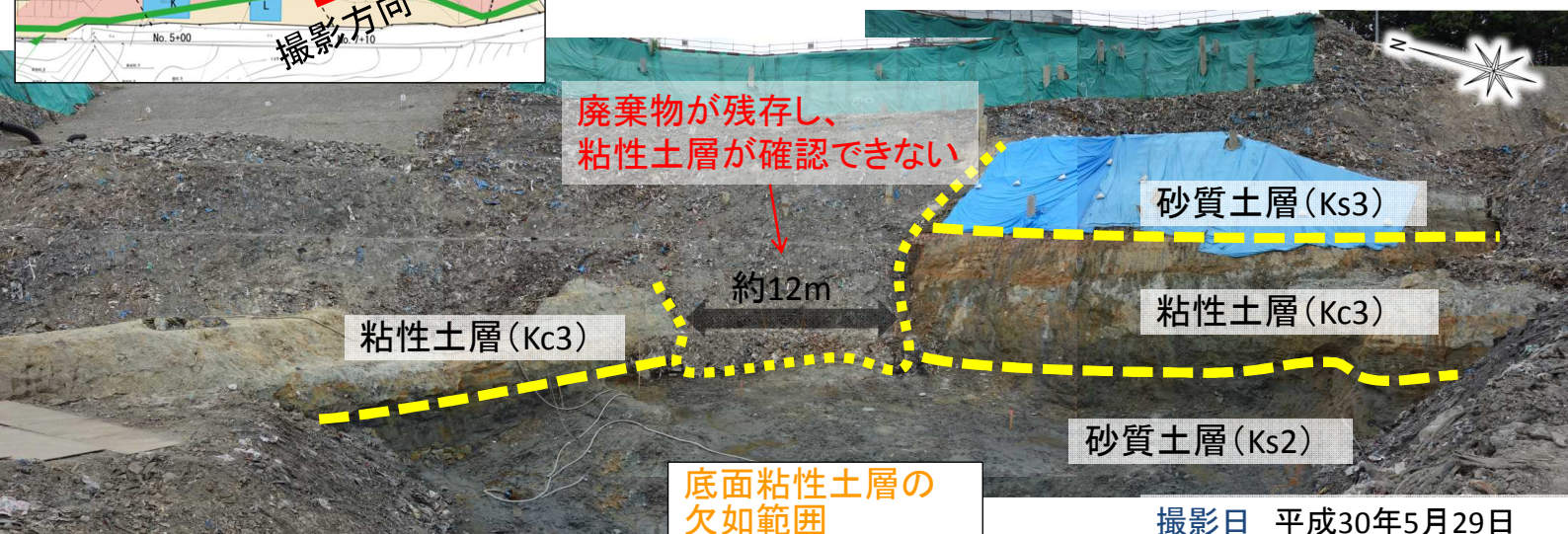


第25回旧RD最終処分場問題連絡協議会

工事の施工方法について

平成30年9月10日

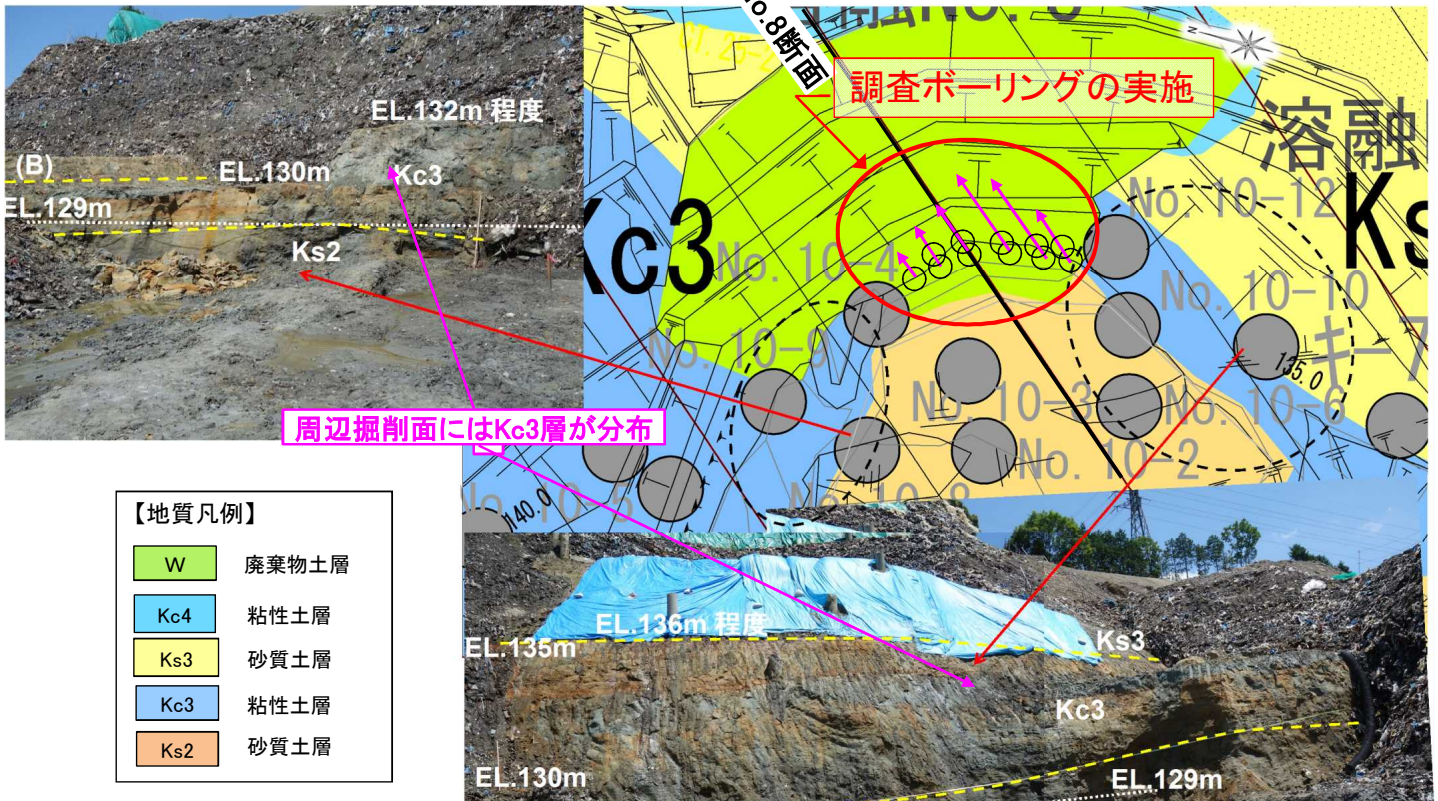
廃棄物土掘削(DE工区)の状況



撮影日 平成30年5月29日

- ・ DE工区東側での計画掘削ラインでの廃棄物土掘削は完了
- ・ 上下流側では底面粘性土層が層厚約2~6m程度で厚く分布 (中央部の幅約12m範囲では、廃棄物土が一部残存)

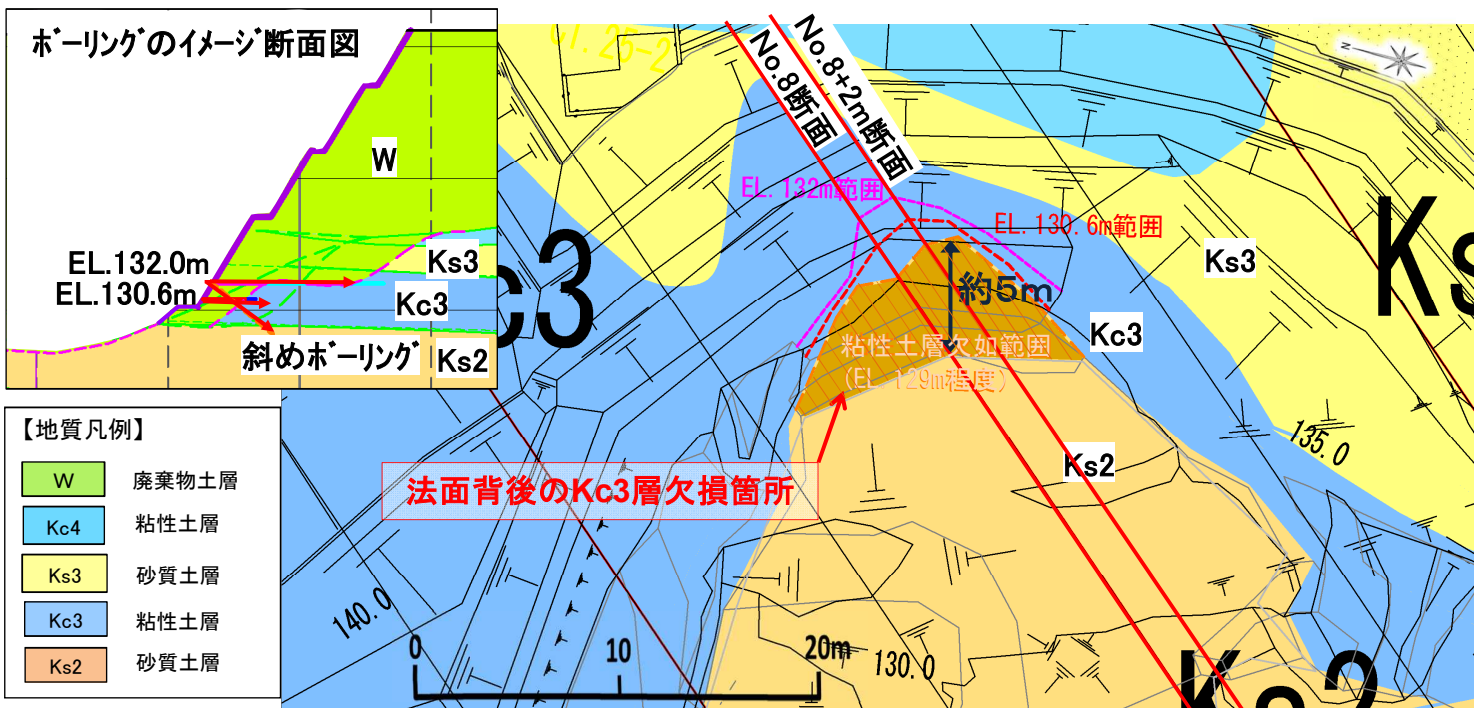
D・E工区掘削法面部地質調査結果(1)



- 掘削面に一部廃棄物が存在していたため、廃棄物の背面にある粘性土層(Kc3)の分布を確認するために横方向の調査ボーリングを行った。

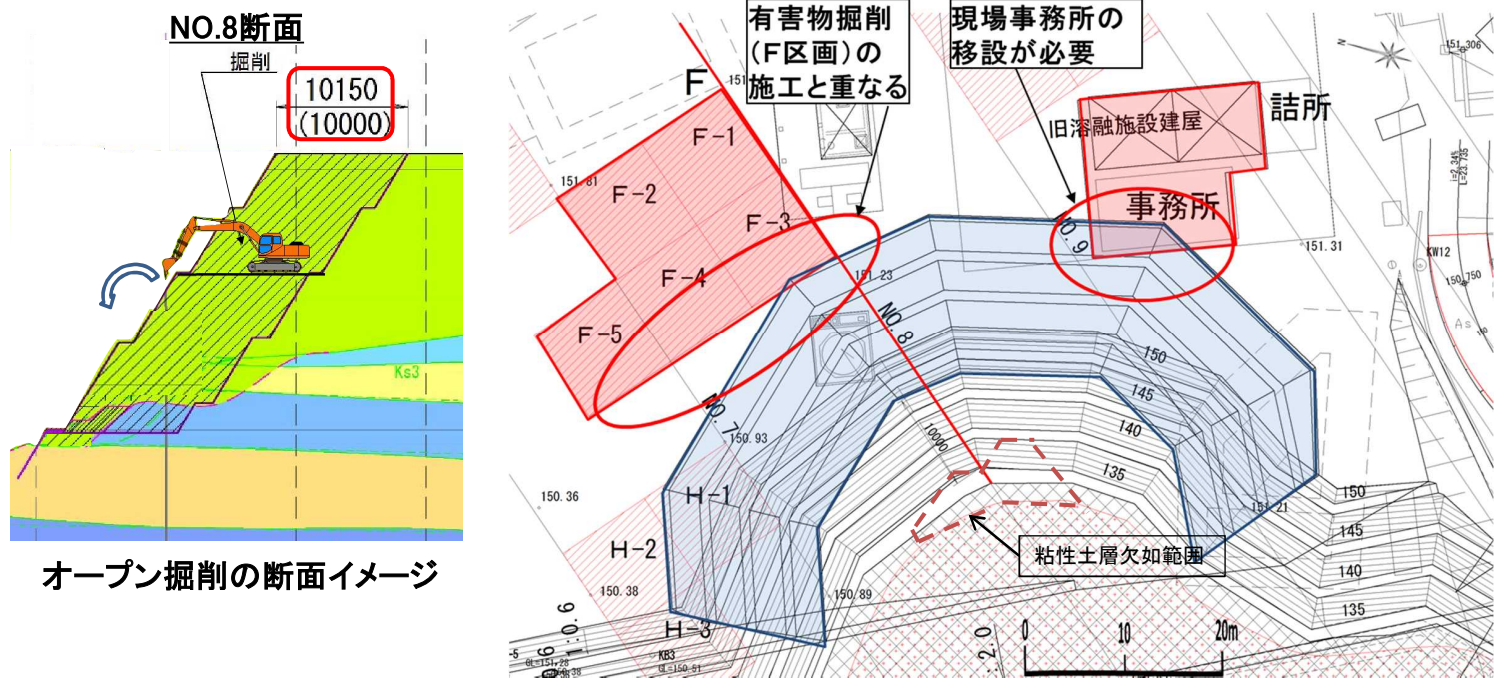
D・E工区掘削法面部地質調査結果(2)

- 調査ボーリングは立体的にKc3層の分布を確認するために、水平ボーリングを11本、斜めボーリングを2本を行った。
- 調査の結果、掘削法面の約5m奥に粘性土(Kc3)が確認できた。この粘性土は上下流の粘性土層と連続し、約3mの厚みを確認した。



掘削法面の遮水工の施工方法(1)

・残存した廃棄物土を掘削し底面遮水工を施工するためにオープン掘削を行った場合、掘削機械や作業員の安全性確保のため10m以上の奥行きが必要となり、現場事務所の移設や有害物掘削(F区画)の施工と重なりF区画の施工が完了するまで着手できないため、工程が大きく遅れ、平成33年3月までの工事完了が困難な状況となる。また、選別処理量等が増え工事費が大きくなる。



掘削法面の遮水工の施工方法(2)

・このため掘削法面の遮水工は、廃棄物の背面にある粘性土層(Kc3)と底面遮水工を接続するために埋め戻し面の上部からケーシングによる廃棄物土の掘削を行い、遮水材(コンクリート)で置換する。

